

会 議 録

会 議 名	第3回東浦町公共施設再配置計画検討委員会	
開 催 日 時	令和5年8月22日(火) 午前9時から午前11時まで	
開 催 場 所	東浦町役場 3階 合同委員会室	
出 席 者	委 員	小松尚氏(委員長)、秀島栄三氏(副委員長)、千頭聡氏、筒香住民自治課長、中村財政課長補佐兼財政係長、三宅防災危機管理課長、内田ふくし課長、青木児童課長、小田健康課長、船津商工振興課長、川瀬都市計画課長、前床まちづくり課長、畔上学校教育課長、佐東生涯学習課長、杉浦スポーツ課長
	事務局	日高町長、神谷企画政策部長、長坂企画政策課長、板谷施設マネジメント係長、竹内主事
議 題 (公開又は非公開の別)	1 あいさつ 2 第2回ひがしうら公共施設未来会議について 3 東浦町公共施設再配置計画(案)について(資料2~4) (1) 第2回東浦町公共施設再配置計画策定作業部会以降の修正対応 (2) 再編プラン案 (3) ロードマップ案(数値目標・削減効果含む) (4) モデル事業案 4 今後の流れ(公開)	
非公開の理由 (会議を非公開とした場合)	/	
傍 聴 者 の 数	3名	
審 議 内 容 (概 要)	<ul style="list-style-type: none"> ・日高町長から挨拶 ・委員の出席及び会議の成立を確認 ・傍聴者の確認 <p>議題の審議内容は、下記のとおり</p>	
備 考	—	

1 あいさつ（公開）

町長より挨拶。

2 第2回ひがしうら公共施設未来会議について

事務局より説明。

◇委員

公共交通の強化や災害時の交通問題に関する意見が出ているが、具体的に参加者はどういったイメージで発言されていたのか。

◆事務局

現役場の交通状況を見ると、混雑に対する対策が必要であることや、防災機能を果たすにあたり災害時の緊急車両の出動も踏まえる必要があると意見があった。また、案2・3ともに、東浦中学校の跡地に全町拠点を整備するにあたり、町南部及び西部に住む町民からは距離が生じるため、交通網強化として「うらら」や有償ボランティア等に関する意見があげられている。

◇委員

防災ハザードに関する意見が出ているが、現東浦中学校敷地について、参加者は災害面での懸念を持っていたか。

◆事務局

事前に災害ハザードの懸念があることを説明しているため、防災に関する意見が出たと考えている。

3 東浦町公共施設再配置計画（案）について（資料2～4）（公開）

- (1) 第2回東浦町公共施設再配置計画策定作業部会以降の修正対応
- (2) 再編プラン案
- (3) ロードマップ案（数値目標・削減効果含む）
- (4) モデル事業案

事務局より、資料2から4について説明し、意見交換を行った。

（修正対応に関する意見）

◇委員

別添資料P. 3に役場と消防署東浦支署の合併について、消防署東浦支署には訓練スペースが併設されると思うが、常時使用されない場所が敷地面積を圧迫することとなり、役場の駐車場の問題へ発展すると感じるため、懸念事項に追加していただきたい。

◇委員

町営住宅について、計画期間内に廃止を検討とあるが、都市計画課としては計画にあげていない点は留意いただきたい。また、借り上げ住宅の対応は考えておらず、補助金の想定である。

◇委員

概要版P. 7について、施設の複合にかかる人口設定について、どの時点でどれくらいを想定しており、人口の下げ止まりは考慮されているのか。また、別添資料P. 28について、中学校は単独建替であり、何かの施設と複合化することは考えていないのか。

◆事務局

概要版P. 7ロードマップについて、施設の規模評価において、将来人口の動向や各課ヒアリングを通して、規模を検討している。人口規模はR4～R19にかけての動向を鑑みて規模維持または縮

小を決定している。

小中一貫校について、概要版 P. 6 にて小学校を拠点として地区によっては中学校を複合することとしているが、緒川地区は北部中学校、緒川新田地区は西部中学校を含むとして計画している。

町営住宅に関する表現は検討し、修正する。

消防の訓練スペースは懸念箇所として追記する。

◇委員長

R19 を人口動向の判断基準としていることは、本編に記載があるか。

◆事務局

本編 P. 121 より評価の考え方を記載しており、施設規模の方向性の設定条件として記載している。ロードマップ上の複合タイミングは、そもそも全施設を早期に対応すべきであるが、財政状況等を鑑みると平準化する必要があることから設定している。面積削減効果はシミュレーション上は一律であるが、モデル事業での検討方法のとおり、実際には実施時期の段階における人口減少値を加味して設定が必要と考えている。

◇委員

R19 で設定することは良いと思うが、最終人口がどうなるかということを設定しないとロードマップが使えるものでないのではないか。

◆事務局

実施時期は人口のみで決められるものではない。削減面積の数値目標は人口を加味しているのではなく、事例やモデル事業、財政状況等を総合的に勘案して、3割減としてシミュレーションを行っている。

◇委員長

削減面積は財政的根拠から算出されていると理解している。人口と財政はある程度相関するものの、人口は予想がつかない点が多く、今回は財政の面から考えている。

◇委員

再編の理由として人口減少が表に立っているため、人口に関する前提条件を明確にした方が、誤解のない内容になると考える。

◇委員

基本方針の2「水害等の災害への対応能力の向上」について、新しい建物に対する対策はあげられているが、現在の建物や建物までのアクセスについての考えはどうか。例えば、他市町の事例では、建物自体は耐えられるという計画であったが、アクセス性について問われた結果、全く別の計画に変わったということもある。建物が水害に対応していると記載があっても、町民は納得しないと考える。また、東浦中学校敷地が危険と記載されているが、跡地に建物をつくるというのは、直感的に矛盾していると感じるのではないか。

◆事務局

新しい施設を災害に対してどう対策していくのかは記載していないため、検討したい。公共施設本体だけではなく、アクセス面からもという意見はごもっともである。東浦中学校・消防署東浦支署・緒川コミュニティセンター・森岡消防詰所は、特に災害ハザードの危険性が高い。各地区施設は小学校敷地で複合することで、ある程度の災害リスクは回避できると考える。災害ハザードのある東浦中学校跡地に拠点を建てることについて、現校舎の立地場所は比較的浸水想定が低いため、拠点を校舎側に整備してかさ上げ等で対応することが妥協点であると考えている。また、学校施設は被災時の早期復旧が望まれるが、図書館等の文化施設は復旧が遅れたとしても比較的支障が少ないことから、現在の案としている。

◇委員長

公共施設の再編は、施設の再編にとどまらず、居住地域の再編に繋がると考えている。立地適正化計画に関する記述がない点が気になる。立地適正化計画について、関連計画として位置付けを整理するだけでなく、計画とのすり合わせが必要と感じる。数合わせだけでは良くない。プラン自体は大きく変わらないと思うが、宿題として検討していただきたい。

(案2で進めること、削減目標、モデル事業について)

◇委員

役場と東浦支署の複合について、複合メリットが追記されており、移転することで物理的にハザード内の立地は解消されると思うが、共用部分での削減などスケールメリットは多く見込めないと感じる。

◆事務局

東浦支署から現場に出動する際のアクセスが重要となるが、現敷地では、有事の際に東浦支署が水没して出動できない状況は避けるべきであり、防災に対する住民意見も多く聞いているため、対応すべきと考える。現時点で、役場敷地への移転としているが、変更の余地はあるため、石浜西小学校跡地等の他敷地へ検討された経緯も踏まえ、意見交換していきたい。市街化調整区域に建てれば良いという意見もあるが、コンパクトなまちを目指す観点からも、まずは市街化区域を前提に検討したいと考えている。

◇委員

再編のメリット・デメリットの議論ではなく、まずはこれだけ減らさなければいけないという削減目標を計画の前提条件として定めるべきと考える。

◆事務局

前回委員会では面積を増やさないことを目標としていたが、作業部会や委員会の意見を踏まえ、推計や国の資料を踏まえ30%以上という目標を設定している。

◇委員長

削減目標は、計画の前段、例えば基本方針などに出てくるべきと考える。

◆事務局

既存の資料を修正する中で目標を追加したが、共通認識を持てる形で記載箇所を検討する。

◇委員

東浦中学校の移転に関して、メリットについては承知しているが、今の場所で建替という意見が根強く残っている。現敷地の全町拠点に東浦中学校が入らないかという意見が想定され、合意形成には時間を要すると思う。別添資料P.20の構想図について、既存の体育館を残すのであれば校舎の設計に苦慮するのではという意見や、借地場所の対応など、もう少し具体的な計画がないと不安を払拭できないのではないかと考えている。また、体育館との複合について、学校の使用が優先されることは理解しているが、社会体育施設としてのサービス低下が懸念される。

◇委員長

意見として受ける。再編プランは全体のバランスを鑑みて検討している。また、町体育館へ東浦中学校移転について、6,000㎡強の敷地が校舎等だけに使われる、つまりグラウンドを含まない敷地であれば複数の設計案が考えられると思う。

◆事務局

不安に思われるという事は理解できる。教育委員会の意見としては、今の場所が良いのか、それとも体育館の問題が解決すれば移転自体は問題ないのか、どのような方向性なのか。

◇委員

計画がゆるがないような雰囲気を感じており、計画段階なので色々な可能性を検討してもらいた

い。現位置での建替え可能性と、移転するのであればもう少し自由な場所を、という2つの意見がある。

◆事務局

両論あることは理解した。不安の解消に努めていく。議論を進めるためにも、現位置建替のメリットがあれば代替案をいただきたい。

◇委員

平時と緊急時のイメージを共有した方が良いと思う。東浦中学校敷地で盛土をすれば解決できるのであれば学校でも他施設でも問題ないのではないか。また、東浦支署は平時であれば今の場所が良いと思うが、災害時の時をどこまで考えるのか、イメージを共有しないと考えづらいと感じた。

◇委員長

意見として受ける。

◇委員

利用者側の目線も考えるべき。全町拠点③になかよし学園が入っている。なかよし学園は利用人数が増えており、多機能施設に複合となっている。なかよし学園の利用者は、保護者の方を含め繊細な方が多く、多くの人が集まる場所に集約するのが良いのかは疑問である。現時点は森岡保育園に併設されており、のんびりした雰囲気保育園への移動もしやすいため、そういった利用者側の目線でも考えていただきたい。

また、モデル事業として森岡地区の検討案を掲載しているが、その中になかよし学園を入れ込むことがいいのか、現在地のままがいいのかも児童課では検討している。

◇委員長

意見として受ける。

◇委員

財政課としては、30%削減できれば問題ないとお墨付きを出しているわけではなく、財政的な限界値とっていただきたい。社会情勢等の今後の不確定要素もある。30%に達することができれば良いのではなく、30%以上削減するという認識を持っていただきたい。

◇委員長

他自治体でも「以上」と明記している例は少ないように思われるものの、良い考えだと思う。意見として受ける。

◇委員

“例えば”の話が積み重なっており、不確定要素が多いためやむを得ないが、定期的な見直しや点検に重きを置いていただきたい。計画通り進んでいるか、財政の状況はどうか、3割削減の達成度は、という点を定期的に補う必要があると考える。本計画が決定事項となってしまう、今後見直しが効かない状況になるのは避けたい。

◇委員長

意見として受ける。

◇委員

床面積が減ってもコストが減らないのでは意味がない。PFI等の色々な手法を取り入れてコストを減らすことが必要と考える。面積だけにとらわれる必要はない。

◇委員長

意見として受ける。

◇委員

概要版P.7ロードマップ上では、体育館は2024年以降実施とある。体育館敷地は土砂災害の危険

があるが、複合の際は土砂災害対策も合わせて行われるのか。

◆事務局

現状、詳細な検討は行っていないが、中学校の整備を行うにあたっては当然対策すべきと考える。詳細な検討は行っていないため、工事内容によっては、実施時期が遅れることも想定される。

◇委員

東浦中学校を移転した後に、体育館を20年後に建替とあるが、東浦中学校移転のタイミングで町体育館を建て替える考えはないのか。

◆事務局

町体育館について、現段階では、一緒に建て直した方が良いのかという検討はしていないが、耐用年数にも十分な時間があるため、更新時期までに長寿命化を図ることとしている。移転と同タイミングで体育館を建て替えた場合の検討も、必要であると考え。

◇委員長

町体育館の建替について、中学校移転時に建設はしないにしても、同タイミングで計画しておく必要があると考える。同じタイミングで整備することは、案としては考えられるが、一時的な支出はかなり増えるため、財政的に可能かという問題がある。先行投資として一緒に整備するというアイデアとしてはあると思う。

◇委員

全町拠点③に相談機能が集約されているが、現在、施設の配置がバラバラであり、色々な所で相談できるようになっている。1箇所に集約した場合、例えば災害時には人を頼ることが多くあると思うが、特に高齢者において移動の問題はないか等が懸念される。

◇委員

概要版P.10 モデル事業についての位置づけはどのように考えているか。再配置計画の中でのモデル事業なのか、別の計画で改めて計画していくのか。

◆事務局

森岡地区の複合は、ロードマップ上の複合化2としている。来年度以降、基本計画の後、設計業務が続く想定である。

◇委員

概要版P.2の方向性は、基本方針の中に入るべき。その中に削減目標30%を強く示すべきである。方向性と記載している箇所には方針の具体化といった主旨の内容が記載されるとよいと考える。町民意見・庁内意見は基本方針を作るためのものである。未来会議には新しいものを作るといった意見があるが、こうした意見が基本方針で「施設を減らす」と示した後に出てくると、増やす必要があるのでは、とわかりかねない。現在の記載場所とするのであれば、削減を目指す前提での意見であれば問題ないとする。

フローにおける公共施設評価は、公共施設の評価というよりは、計画の評価になると考える。当初の目標設定から、災害リスクは結果どうなったか、小学校の通学距離等、ロードマップ案を作成したことで、どう効果が出たのかを振り返る場所である。また、計画を見直す際には、効果検証の枠組みとしてこの部分を作っておくことが有効であると感じた。

◆事務局

再度検討し、修正する。

◇委員

第6章はロードマップの検討となっているが、検討でなく、検討を受けての結果であると思う。

◆事務局

記載を修正する。

4 今後の流れ（公開）

事務局から資料5に沿って、公共施設再配置計画検討委員会、公共施設再配置計画策定作業部会、東浦公共施設未来会議等の流れを説明。

第4回目の検討委員会は、令和5年11月に開催する予定をしていることを伝えた。